

第 47 回 関東地区公立中学校
修学旅行研究発表会
研 究 紀 要

付録：修学旅行実施に関する調査集計結果の分析と考察



期 日：23年11月22日（火）

会 場：ホテルポートプラザちば

主 催

関東地区公立中学校修学旅行委員会
公益財団法人全国修学旅行研究協会

後 援

千葉県・千葉市・群馬県・栃木県・茨城県・埼玉県・さいたま市 各教育委員会
千葉県・千葉市・群馬県・栃木県・茨城県・埼玉県・さいたま市 各中学校長会

研究発表会の趣旨

修学旅行は近年、訪問地や体験の幅が広がり、その形態が多様になってきました。しかし、望ましい集団活動、個人的資質の向上、社会性の涵養、自主性・実践性の育成、人間としての生き方への志向といった“修学旅行の価値”は変わっていません。まさにこうした価値を追究していくことが修学旅行の目的なのです。

現在、学校教育の中心課題となっている『生きる力』とは、「生涯において生起される課題を自ら解決できる力」と考えます。『生きる力』をはぐくむために教科、道徳、総合的な学習の時間、そして特別活動があります。教科は学問をとおして、道徳は生き方・あり方から、総合学習は身の回りを取り巻く課題から、特別活動は自治的活動や集団づくりといったように、それぞれの領域を生かした課題をもとに追究していくことが求められています。

修学旅行についても、「生きる力」を育成する観点から、自治的・集団的活動をもとに、学校では経験できない出会い・ふれあい・発見を通して喜びや感動を味わい、“学びの創造”に取り組む必要があると思います。つまり学びの価値を与えていく意図的な学習計画があるべきです。

その意味で、何を体験させるかということ以上に、体験によって何を学ばせるかが大切なのです。修学旅行でねらいを具現化するための方法として各学校が体験活動に目を向けより一層の教育的な効果を生み出しています。五感を通した体験と感動から感性がゆずぶられ、学習をより効果的にする事につながっています。「人間としての生き方について自覚を深め、これからの自己を活かす能力を養う」ために実生活に結びつけた修学旅行の在り方が今後ますます求められます。

修学旅行の果たす役割は一層大きなものとなります。知識・技能を活用する学習と相まってより確かなものになります。

3月11日、東日本大震災に見舞われました。修学旅行についてもその影響は大変大きなものでした。東北方面への修学旅行のみならず、関東方面を予定していた学校等も方面変更あるいは日程変更するなどの学校が見られました。東北地方の学校においては予定通り実施できた学校もありましたが、日程変更・方面変更あるいは実施が困難という学校もありました。

関東地区における中学校での実施状況調査をはじめとして、今年度は「感性をはぐくむ修学旅行の展開」を大会主題に掲げ調査研究を重ねて参りました。

各学校においては実践活動を通して子どもたちの主体性を生かし、さらに教育効果を高めるために関係者や関係機関との連携を図る中で、創意に満ちた取り組みをされていることと思います。

今日の研究発表会の開催にあたって千葉県は勿論のこと各県教育委員会をはじめ、関係教育諸機関のご協力とご支援を賜り、修学旅行の研究を深めることは大きな意義があると考えます。

目 次

1	研究発表会次第	1
2	あいさつ	2
	関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 葉 山 幸 雄 公益財団法人全国修学旅行研究協会理事長 中 西 朗	
3	研究発表1	4
	「キャリア教育をメインとする修学旅行の実践」 ～ 30年以上に及ぶ会津地方とこのころの交流～ 船橋市立御滝中学校教諭 足 立 雅 志	
4	研究発表2	16
	人との「ふれあい」をメインにおいた修学旅行 船橋市立法田中学校教諭 波 田 地 馨	
5	指導講評	29
	千葉県教育庁教育振興部指導課 指導主事 小 関 正 彦 先生	
6	研究発表のあゆみ	30
7	関東地区公立中学校修学旅行委員会報告	33
	研究委員長 市川市立南行徳中学校長 菅 原 繁	

< 付録 >

修学旅行の実施状況並びに「感性をはぐくむ修学旅行」の取り組みについて
調査集計結果の分析と考察

研究発表会次第

- 1 大会主題 「感性をはぐくむ修学旅行の展開」
- 2 日 程
 - (1) 受付 (13:00 ~ 13:30)
 - (2) 開会行事 (13:30 ~ 13:55)
 - ・開会のことば
関東地区公立中学校修学旅行委員会運営委員長 大坪 桂
 - ・主催者あいさつ
関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 葉山 幸雄
公益財団法人全国修学旅行研究協会理事長 中西 朗
 - ・来賓祝辞
千葉県教育委員会教育長 鬼澤 佳弘 様
千葉市教育委員会教育長 志村 修 様
 - ・来賓及び指導者紹介
 - (3) 関修委活動報告(13:55 ~ 14:10)
 - (4) 研究発表1 (14:15 ~ 14:40)
 - 「キャリア教育をメインとする修学旅行の実践」
～ 30年以上に及ぶ会津地方とこのころの交流～
船橋市立御滝中学校教諭 足立 雅志
 - <休憩> (14:40 ~ 14:55)
 - (5) 研究発表2 (14:55 ~ 15:20)
 - 人との「ふれあい」をメインにおいた修学旅行
船橋市立法田中学校教諭 波田地 馨
 - (6) 研究協議 (15:20 ~ 15:40)
 - (7) 指導講評 (15:40 ~ 16:00)
 - 千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 小関 正彦 様
 - (8) 閉会行事 (16:00 ~ 16:10)
 - ・閉会のことば
千葉県中学校長会修学旅行委員会運営委員長 大坪 桂
 - ・諸連絡



研究発表会の開催にあたって

関東地区公立中学校修学旅行委員会
会長 葉山 幸雄
(千葉県富里市立富里中学校長)

第47回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が、多くの皆様のご尽力により、ここ千葉市で開催されますことを心からお喜び申し上げます。

今年度は、3月11日の未曾有の東日本大震災をはじめ、集中豪雨・台風12号等による災害の多い年であったかと思えます。そのため、旅行の実施すら厳しい中での実施、さらに修学旅行先が余儀なく変更しなければならない学校も数多くありました。特に、東日本大震災の影響では東北地方へ修学旅行を例年行っていた学校は関西・信州方面等に変更し、今まで現地での体験学習や地域の方々との交流活動が無くなり、新たな計画立案・実施と大変なご苦労があったかと思えます。

さて、修学旅行は特別活動の学校行事『旅行・集団宿泊的行事』の中で、最も生徒たちが個人や集団として集大成を行う大変貴重な教育活動であります。また、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるととも、人としての生き方について自覚を深める学習の場でもあります。

このような観点から本研究発表会は、生徒一人ひとりの感性をはぐくむ修学旅行にするために、各学校で毎年取り組まれた実践的研究を互いに共有し、より良いものを目指す学びあいの機会として、大変重要な役割を果たしてきました。

本日の研究発表会の主題は、「感性をはぐくむ修学旅行の展開」です。昨年度までは、「感性をはぐくむ修学旅行の探求」でした。それぞれの学校での取り組みが充実してきており、探求から展開へと実践活動を重視した主題へと変わりました。この主題にそって、船橋市立御滝中学校・法田中学校の2校から発表があります。発表して頂いた貴重な実践事例に学ぶとともに、参加者の皆様方からの活発な意見交換等が行われ、各校の今後の修学旅行に更なる充実発展が図られますようお願い申し上げます。発表して頂いた先生方には、ご多用中の中ご準備をしていただき、大変ありがとうございました。

最後になりましたが、研究発表会の開催にあたり、ご後援をいただきました千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県中学校長会、そして本日ご指導・ご助言をいただきました千葉県教育委員会教育長様、千葉市教育委員会教育長様、千葉県教育庁教育総務部指導課指導主事 小関正彦様、運営に携わった公益財団法人全国修学旅行研究会、その他ご支援ご協力を賜りました多くの方々に衷心より御礼を申し上げます。挨拶とさせていただきます。



修学旅行研究発表会の開催にあたって

公益財団法人全国修学旅行研究協会
理事長 中西 朗

8月12日付の毎日新聞の報道によりますと、今回の大震災による児童生徒の死者・行方不明者の数は、岩手・宮城・福島3県で351人にのぼります。心が痛みます。予期せぬ出来事だったでしょうが、親に引き渡し後の数が115名を数え、避難手段方法の再考が求められています。

今、学校教育には、『基礎学力の充実』が求められています。これは、単に量的な知識増だけではありません。思考力・表現力・判断力等、いかに「自らが自らの学びを築いていく」ことだと考えています。それだけに、修学旅行の役割が増大しているのでしょうか。このときに、第47回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が開催されますことは、まことに意義深いものがあります。葉山会長を中心とした関東地区公立中学校修学旅行委員会のご尽力はもとより、各県の教育委員会・中学校長会、特に開催県としての千葉県のご支援をいただいておりますことに心から御礼申し上げます。また、ご多忙の中、大勢の方々にご参会いただき感謝に耐えません。

過日（7月27日）の全国修学旅行研究大会では、『人はなぜ旅をするか』という課題が提示されました。その時の講演の中で、「たび」の語源が話されました。「旅」の元の言葉は、「たむ」だということです。「む」と「び」は相互に交換されます。「さみしい」と「さびしい」のように使われています。「たむ」とは、廻るという意味です。橘諸兄の歌に「・・・ひるは た たみて・・・」とあります。「昼は田を廻って」ということです。神が廻る、天子が廻る、人が廻る巡礼等々が、「旅」を作っていました。

このように、各地を巡る旅によって、自分の生い立ちと違った世界が広がります。「その土地で生きて来たらどんな自分が誕生したのだろうか」と不思議な気持ちになる」と、有栖川有栖氏が書かれています。日頃の生活と異なる未知なる自然や人々の営みから生まれた歴史・文化等に触れ、そこに自己投影がなされます。それが「生きる力」として、修学旅行に参加する一人ひとりの生徒の生き方への問いかけなのでしょう。

本大会の主題であります「感性をはぐくむ修学旅行の展開」は、このような意味合いの中で生まれたものです。その実践事例として船橋市立御滝中学校と法田中学校が発表してくれます。「キャリア学習を」「触れ合いを」メインに、それぞれに貴重な素晴らしい体験活動が提示されます。今後、修学旅行の新しい価値軸として期待されるものです。発表して下さる足立 雅志先生、波田地 馨先生に感謝申し上げます。

最後になりましたが、ご祝辞をいただきます千葉県教育委員会教育長 鬼沢 佳弘様、千葉市教育委員会教育長 志村 修様、指導講評をいただきます千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 小関 正彦様に心から御礼申し上げます。

< 研究発表 1 >

「キャリア教育をメインとする修学旅行の実践」
～ 30 年以上に及ぶ会津地方とこのころの交流～

船橋市立御滝中学校教諭 足立 雅志

< 研究発表 2 >

人との「ふれあい」をメインにおいた修学旅行

船橋市立法田中学校教諭 波田地 馨

< 研究発表 1 >

「キャリア教育をメインとする修学旅行の実践」

～ 30年以上に及ぶ会津地方とのこころの交流～

船橋市立御滝中学校教諭 足立 雅志

1, はじめに

本校が現在のようなスタイルで会津での修学旅行を始めて、本年で33年目を迎える予定であった。しかし3月11日の東日本大震災後の福島第一原子力発電所の放射能問題によって、今年度は急遽4月に入ってから修学旅行の行き先を長野県に変更した。これは苦渋の決断であった。

修学旅行2日目に85カ所の事業所で職場体験学習を行うために、下見や事業所決定や事前学習を2年生の秋から進めてきたが、「生徒の安全を確保できない可能性がある」と判断し、やむなく断りの手紙を配送することとなった。生徒や保護者から（自身も御滝中の卒業生である人が多かったが）残念がる声が聞こえたが、生徒の安全を優先した。

場所の変更は本校にとって重大な決断であった。その重大さは、本校に在籍した職員しかわからないと思う。それは30年にわたる伝統の重みである。会津の人々との心の交流がとぎれてしまうのではないかという不安や行って会津の人を喜ばせたいという気持ちが重なり合った。4月以降、会津市観光物産協会の職員は、会津の安全性を強調しに2度ほど本校に来校した。「修学旅行生を呼び戻す一つの策として御滝中に来てもらいたい」という願いを込めての来校であった。今夏、本校では断りのお手紙だけでは失礼と思い、学校長と3年主任で会津の観光物産協会と数箇所の事業所に挨拶に伺った。

2, 船橋市および御滝中学校の概要

船橋市は千葉県の北西に位置する東京の衛星都市である。多数の鉄道や高速道路で東京とつながっており、30分以内で東京の中心部に行くことができる地域である。人口、産業面から見て県庁所在地である千葉市に次ぐ県下第2位の中核市である。人口は約68万人。南部の埋め立て地には、船橋港や大企業の工場が並ぶ。東京と結ばれた市内を横断する鉄道沿線には、住宅地はもちろん、デパートやららぼーとなど大型商業施設が存在する。市を縦断する鉄道沿線には大団地をはじめとする住宅地が広がっている。北部に行けば行くほど農地が広がるが、宅地開発がめざましいのが現状である。

御滝中学校は、船橋市の北部にある伝統校である。昭和24年に創立され、本年で63年の歴史を刻む学校である。昭和45年からの人口増加に伴い、一時は生徒数1500人を越えた時期もあったが、2校が分離したこともあり、ここ数年は生徒数が600～650人程度の中規模校である。本年は学級数18（特別支援学級2をふくむ）、生徒数589人、職員数44人である。学区は船橋市内でも広い方であり、5つの小学校の学区を抱えている。住宅地が主であるが、梨園や畑が点在する。学校は室町時代に開かれた真言宗の御滝不動尊に隣接しており、寺内には水がわき出る滝があり、それが校名の由来となっている。桜の時期には参拝客や花見客でにぎわう地域でもある。

3, 現在の修学旅行の概要

実施日：6月の上旬（第1週の水、木、金）

費用：1,2年次の集金から1,2年次の校外学習代を引いたもの（約44000円前後）

下見：2回 2年次の秋（職員2名・2泊3日）と3年次4月（職員2名・2泊3日）
3日間の行程

1日目：自分たちだけの力で乗車計画や観光計画を立て、現地まで自分たちの力で来る。

1学級 6班 = 清掃などを行う生活班（1班6～7人） 特別支援学級には教師がつく。
班ごとに1日目のプランを設定し、その通りに行動する。朝自宅を出発し、会津（喜多方も可）を見学した後、東山温泉のホテルまで自分たちの力で来る。

班行動での約束

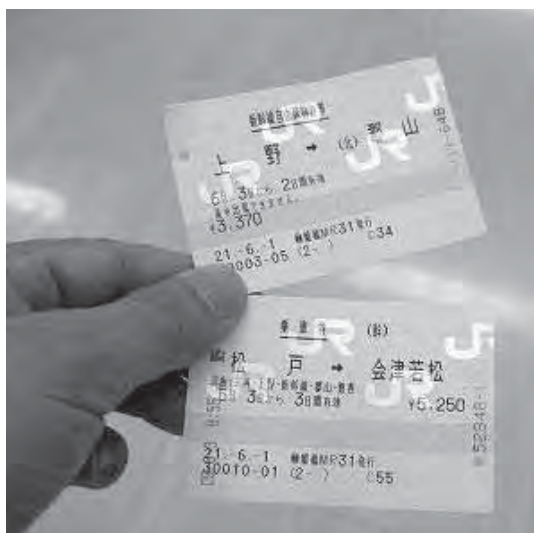
学校近くのJR津田沼駅 JR船橋駅 JR松戸駅のいずれかで教師のチェックを受け、10：30までに会津若松駅に入る

利用交通機関はJR、東武線などの鉄道とバスなどの公共交通機関を利用する。

4：00～4：30までに東山温泉のホテルに帰ってくる

見学場所は、会津若松市内か喜多方市内のみ。会津若松駅、鶴ヶ城、飯盛山、喜多方駅などのチェックポイントを2つ通過すること。

- ・東京駅や上野駅から新幹線を利用する班がほとんどである。新幹線は約5本ぐらいに別れる（中には、柏から東武線を利用する班もある）
- ・郡山駅からは高速バス、磐越西線を利用する。
列車は団体列車や団体券を使わない。新幹線の座席は各班ごとバラバラにとり、わざと固まって乗車させない。
- ・会津若松や喜多方では徒歩や循環バスを利用し、各地を見学する。



2日目：会津、喜多方市内約85カ所の事業所に分かれて行う職場体験学習（ふれあい学習）

オリエンテーション（職場紹介）後、希望する事業所に割り振り、職場体験学習を行う。職場への割り振りは、クラスの枠を超えて行う。あくまでも自分がやってみたい分野の事業所に割り振られる。

事業所までの移動、事業所から桧原湖のペンションまでの移動は、クラス数分頼んだ貸し切りバスで行う。（5～6台）事業所を5～6方面に分けバスに乗車し、数カ所で降りる。そこから地図を片手に事業所まで歩いていく。



3日目：会津地方の自然に親しむクラス別行動

いくつかのコースを設定し、クラスで選択したコースでハイキングや体験を行う。終了後バスで学校まで帰校する

コース例	桧原湖遊覧船と五色沼ハイキング	桧原湖モーターボート体験
	裏磐梯サイクリングと滝見学	魚のつかみ取りと塩焼き
	金山での金採集とトロッコ	パターゴルフ 毘沙門沼手こぎボート など

事前学習（総合的な学習・学級・社会科の授業＝都道府県の調査を使う）

- A：福島県と千葉県と比較（社会科）・位置、地形、気候などの自然条件や産業
- B：福島県について（班新聞作り）福島県の名産品、おみやげ、観光スポット、方言、有名人、歴史、伝統料理、白虎隊についてなど
- C：自分が体験する職場や職業について、各人でテーマをつくって調べる。また当日質問する内容を作成する。
- D：自分が行く事業所に対して
 - ・挨拶状の作成と送付
 - ・履歴書作成と送付（個人の写真も貼付する）

その他：事前学習の一環として白虎隊のドラマを見る（冬休みの宿題）

この事前学習は、学年の実態や考え方によって多少の違いがある。

Cの事前のテーマ（過去の例）

- ・なぜ喜多方ラーメンは全国的に有名になったのか。その秘密は？
- ・会津の伝統料理の特色は？接客で大切なことは何だろう。

事後の学習・・・冊子を作り、事業所に送付するのが伝統となっている。

A：事業所へのお礼状の作成と送付

B：職場体験学習先で学んだことを全員が新聞形式にまとめる。

全員の新聞を印刷製本し、冊子にまとめる。それを校長のお礼状と共に各事業所に郵送する。

C：ペンションへのお礼状の作成（実行委員）



（冊子の一例）

修学旅行のまでの主な行程

（Sは生徒の活動・Tは教師の活動）

2年次 10月：T，事業所の確認（往復はがきにて、受け入れ可能かどうか確認する）

11月：T，第1回下見（受け入れ可能な事業所への訪問）

1月：S，第1回修学旅行集会（御滝中の修学旅行の意義・3日間の主な行程 / ~ 3月 これからどんな活動をするかなど）

S，社会科の授業で福島の実地調査（約5時間）

S，事前新聞作成開始（総合的な学習の時間 約6時間）完成後貼り出す

S，ふれあい学習のガイダンス（どんな仕事をするか）そして希望表提出

T，事業所の生徒振り分け（3月には決定）

3年次 4月：（おもに正規日課までの学年日課が使われる）

~ 5月：S，修学旅行のための組織や班作成（実行委員クラス男女2名・班長選出）

S，1日目の班行動計画作成・乗車列車決定も含む（約6時間程度）

T，班行動のチェック（計画が実行できるかの確認）と乗車券の旅行業者への発注

S，事業所への自分の履歴書の作成

S，きまりの確認・ホテル、ペンションの部屋割り、バス座席決定

S，事業所ごとの打ち合わせと事前研究（約6時間）

・持ち物や費用、仕事内容の確認・挨拶状の作成・個人テーマの決定

・事前研究開始・あいさつやお礼の練習・質問事項の確認

S，学級や集会でのしおり読み合わせ

T，ふれあい学習の配車計画とお弁当数の確定

6月旅行前日：S，荷物の配送（宅急便）事前集会

当日の夜 S，ふれあい学習の最終打ち合わせ

2日目：T，全事業所への訪問（1人 約6～8事業所）

旅行後：S，作文 事業所へのお礼状作成

職場体験学習の新聞作成（夏休み前まで）

9月：T，職場体験学習の冊子印刷し業者へ（印刷業者が製本）

10月：T，冊子完成・お礼状と共に送付

T，会計報告と返金（各人のかかった分以外は返金）

4 , 修学旅行で目指すもの (どのような教育効果を狙っているか)

企画・運営力の向上 (班別行動の乗車計画および散策計画を通して)

生徒のキャリアアップ (2日目のふれあい学習を通して)

会津の人との交流・心のふれあいを通して、コミュニケーション能力の向上

生徒間の人間関係の向上、生徒と教師の信頼関係の深化

表現力や資料収集活用能力の向上 (班計画、事前調べの壁新聞、事後の冊子作りを通して)

しかし最も大きな教育効果は会津の人から学ぶ優しさである。人と人がふれあう大切さや心地よさである。

5 , 現在のふれあい学習 (会津や喜多方での職場体験) になるまでの変遷 (33年間のあゆみ)

御滝中は開校以来、京都や奈良などの関西方面や会津若松などに修学旅行に訪れていた。しかしそれはクラス全体で名所や旧跡を歩くというごくふつうの修学旅行であった。このスタイルが変化するのは1979年 (昭和54) からである。

第1期：徹底した会津調べを検証する修学旅行を实践 (研究・学び重視の修学旅行)

従来の修学旅行では

- ・思い出が薄く、準備から大変な思いをする林間学校 (2年) のほうが印象が強いという生徒からの提言
- ・3年間の旅行的行事の集大成としてふさわしい取り組みといえないという教師の疑問
そこで職員間の話し合いで次のような方向性が生まれた
 - 1 , 当時研究をしていた『学び方学習』を追求する場にする。
 - 2 , 日常の学習や諸活動の実践を生かし、発展させる「総合学習」の場とする。
 - 3 , 団体行動、係活動を通して「集団意識の高揚」の場とする。

学び方学習とは

思考・計画・実践・検証の4サイクルで学習を進め、生徒に自学自習の能力を身につかせようとするもの。昭和54年から自主研修として御滝中で進められた研究である。生涯にわたって学べるための基礎をつくるものである。全教科・領域で研究され、実践された。

そこで、修学旅行2日目を生徒の自主的な研究活動に当てることにし、次のようなプロセスで研究を行った。

第1段階：徹底的に会津を調べる。テーマ「会津を知る」・・クラス単位で1月から開始班ごとに調査し、わかったことを発表する。調べることによって出る疑問を出し合う。またお互いの調べた知識から疑問を解消していく。

第2段階：それでも解決しない疑問を学級として決め、研究仮説を立て、研究手順の計画を立てる (修学旅行でどのように疑問を解決していくのか・・2日目の行動や行程も決定 していく)

修学旅行中、現地での調べや聞き取り調査。地元の方を招いての講演会。班やクラスごとのまとめを行う

あるクラス的具体例

クラステーマ「白虎隊の歩んだ道を振り返りそのときの気持を考えよう」

1班テーマ「松平家との関係・家訓・白虎隊の名の由来」

2班テーマ「白虎隊の日常生活」

3班テーマ「服装・武器について」

4班テーマ「戊辰戦争の起こった由来」

5班テーマ「自刃について」

6班テーマ「戦いの状況」

調査方法 白虎隊の出陣路を逆に歩き、退却の地形、状況を身をもって体験し、自刃にいたる心情を追求する

班テーマに沿って資料を見て、現地の人に聞くなどして班の結論を出す

班の結論をもちより学級での結論を出す

実際の3日間の学習状況

第1日目：20：30～講演「白虎隊について」講師 会津御寮主人 鎌田氏

22：00～学級学習会 鎌田氏の講演のまとめと明日の確認

第2日目：19：00～学級学習会 現地調査後の学級としてのまとめ

20：30～全体学習会 クラス発表（8学級）

徹底した会津調べと研究・・・会津の子どもより会津のことを知っているという評価を得る

昭和58年から「人に会う」が学習の中心課題となる・・・班別の訪問学習への変化

それまでの調査、体験型の修学旅行で、会津の歴史や産業、会津人の考え方を学んできたが、調査研究のなかで「人に会って学ぶ」が最も生徒の教育効果が高いという結論になった。そのため、形式を少し変化させた。「会津の人に会って、会った人から生き方や考え方を学び取り、生徒のこれからの生きる指針にしよう」ということに重きを置くようになった。

そのため2日目の行動がクラス単位から「1対1の対話が可能である人数で、出来る限り長時間おじゃまする」（10名前後）というスタイルに変化した。

訪問先は、酒蔵、漆器、焼き物、民芸品店など会津の伝統工芸が中心で、軒数は40軒程度であった。事業所を訪問し、お仕事の手を休めて頂いて主人やご家族に聞き取り調査をするという訪問学習に変化した。その仕事の特色や伝統、技術などのお話し以外に訪問先の講師の方が自分の人生経験や生き様などを語って下さるのが特色であり、生徒が最も感化される場面であったようである。

また1日目、鶴ヶ城で行う全体学習は定着し、講師には会津市長、観光課の方、小林常應氏（元小学校教諭）、末広酒造社長新城猪之吉氏、など地元の名士や歴史家などであった。特に会津復古会という地元のグループが御滝中の修学旅行を支えてくれていた。そのため市長の講演が企画できたのである。学校（教師）と会津の人々の心の交流がますます深くなっていった。（市長の講演は平成15年ごろまで続いた）講演場所が鶴ヶ城の広場であるので聞く方も話す

方も環境としてはよくないが、生徒たちは一生懸命聞き入っていたようである。講演のお礼として、御滝中生は例年「荒城の月」などの合唱をしたのだが、これが現地の方を感動させたようで、何度か地元新聞で紹介されている。

また訪問先に手作りのお土産を持って行ったこともあった。

この頃から「会津では御滝中は特別な存在である」という伝統が生まれてくる。

ある卒業生の作文から

私が蒔絵師の照井蔵人さんを訪ねたのはもう7年も前になります。・・・私たちの旅の目的は蒔絵の伝統や蒔絵にかける照井さんの心意気を知ろうと言うことでした。蒔絵については事前学習である程度学ぶことができました。そして照井さんを訪ねて実際に現場で見て、より深く蒔絵を知ることができました。・・・照井さんの仕事にかける情熱は訪問した時に理解していたつもりでしたが、自分が社会人になって、照井さんの仕事に対する情熱や作品にかける情熱を改めて具体的に理解することができました。

照井さんは事故で左手を失い不自由な体の方ですが私たちにこうおっしゃいました「不自由を常と思えば不足なし」と。また怪我をして親に心配掛けることが一番親不幸なのだともおっしゃいました。・・・照井さんの涙を私は絶対に忘れることはないでしょう。

会津の修学旅行の思い出といえば、数多くあげられるのであるが、私にとって何よりも必魂に徹したのは、末廣酒造社 新城猪之吉氏との出逢いである。とても厳格なお人柄だとお聞きしていたので、訪問のためにできるだけ手落ちがないよう、かなりの事前研究をして臨んだ・・・新城さんは酒薫る部屋の中で我々に波瀾万丈な人生を語って下さった。・・・あの修学旅行からはや8年が過ぎた。新城さんは今でも若輩な私との文通をして下さって、そのはがきを手にする度に、私はあの会津の風を感じて心温まるのである。・・・

平成13年、キャリア学習の奨励から現在の職場体験学習に変化

長い間続いた訪問学習では次のような問題点がでていた。

訪問する人数が多く、質問できない生徒や飽きてしまう生徒が出てきている。

訪問する人数を減らしたい（訪問先は約40、生徒は約2班12人ほど）

長時間かけて調べ学習を行うが、訪問しても働いているところや（作っているところ）を見学し質問するだけで、体験するという時間が短い。

見る、聞くだけでなく体験させたい

ふれあっている時間が短い（午前中に訪問し見学、質問後、事業所の方と御弁当を一緒に食べるという行程で午後1時ぐらいには終了してしまう。）

もう少し長時間行いたい

2年次に船橋で職場体験を実施し成功した。職場体験学習は生徒達に与える教育効果が大きい。

会津でも職場体験ができないか？

以上のような理由で、職場体験ができるかどうか現地に行って交渉を行うこととなった。やらなければならないのは次の2つであった

従来訪問させてもらっている事業所に趣旨を説明し一緒に働かせてもらうことの許可
新事業所の開拓

難問であったのは の新事業所の開拓であった。しかしこれをクリアできたのはやはり御滝中学校と会津の人と人との交流であった。御滝中の職業体験型の修学旅行の趣旨に賛同してくれた慶山焼の曲山氏との出逢いや会津復古会や市の観光物産協会、市長などの後押しがなかったら80以上の事業所を確保できなかっただろう。まさに人とのつながりに重点を置いてきた修学旅行の成果が形になって現れたと言って良いと思う。

6 , 伝統が生徒にあたえる無言の力

修学旅行に関連する出来事

昭和62年 創立記念日において 会津 鎌田 弑氏の講演

昭和63年 会津修学旅行10周年記念式典(鶴ヶ城本丸内にて)お世話になった会津市長、小林常應氏(地元歴史家)、新城猪之吉氏(末廣酒造社長)、鎌田弑氏(会津御寮経営者)、坂本弘氏(会津民報)らに感謝状贈呈
鶴ヶ城西側に桜の記念植樹

平成元年 創立40周年記念式典に会津の方を来賓として呼びする。(鎌田氏・新城氏・照井氏記念品は会津蒔絵師 照井 蔵人氏作による蒔絵の校歌額

平成5年 会津修学旅行15周年記念式典 文化福祉センター内にタイムカプセル埋蔵

平成20年 会津修学旅行30周年記念式典(東山温泉ホテルにて)会津市長、五十嵐大祐氏(会津葵社長) 鎌田弑氏の妻公子様、鈴木昭一氏(末廣酒造専務) 照井克彦氏(蒔絵工房てるい)、鈴木英夫氏(竹細工 竹藤)に感謝状飯盛山に37本のあじさいの植樹

平成22年 会津若松市「旅のしおりコンテスト」で毎年送付する「体験学習の冊子」が優秀賞に選ばれる。(会津市教育旅行プロジェクト協議会)



(鶴ヶ城の御滝中の桜)

上の関連以外に、あかべこやおきあがりこぼし、会津のお酒、竹細工が職員玄関に展示されている。入学したての生徒達は「これ何だろう」という疑問を抱きつつ生活し、それが修学旅行に関するものと2年次になって理解するのである。このように本校の日常の学校生活のなかには会津が息づいている。

そして何よりも生徒達は先輩たちから聞く修学旅行の話にあこがれる。1日目の班別行動や

3日目のクラス別行動においては「あまりおもしろくなかった」ということを言う生徒はいるが、2日目の職場体験学習においては不満は出ない。多少の不満（お客さんが来なかったなど）はあるものの、不満を言うてはいけないという気遣いの伝統も生まれているように感じる。「ラーメン屋さんで働けて楽しかった」「会津の伝統料理屋でごちそうをいただいた」「あまり忙しくなかったけれどおばあさんが優しかった」「とても緊張したけどとても良くしてくれた」などの感想が口コミで後輩に伝わっている。そのため今年度の修学旅行の変更では「残念がる声」が起きたのは当然のことである。

本校には生徒指導上の問題を抱える生徒が少なくない。各事業所に送り出すには大変心配である。修学旅行の活動が始まる前に必ず教師が言うのは

「会津の人は御滝中生だから受け容れてくださる。絶対に失礼があってはならない。」

「会津の人は優しい。その優しさに今までの先輩達もきちんと応えてきた。」

「会津と御滝中は特別な関係で結ばれている。30年の伝統を君達が壊してはいけない。」

「会津の人は御滝中生を待っていてくれる。その期待を裏切ってはいけない。」

「今までどんな先輩でも、修学旅行だけはきちんとやってきた。だから君達もしっかりやって欲しい。」

という言葉である。これは大いに生徒達に影響を与える。問題のある生徒もない生徒にとっても修学旅行に緊張と期待を持たせる。学校の中を見ると30年以上の伝統が受け継がれているものは、この修学旅行での取り組み以外では、そう多くはない。これが伝統の持つ最大の効果であると感じている。



体育館に飾られた校歌額
照井氏によって漆塗りが施された。



職員玄関正面の会津展示コーナーの一部

修学旅行にご協力頂いている事業所一覧

	分野	事業所名	内容	確定人数	服装・持ち物	費用	昼
1	焼き物	会津慶山焼	工房補助・体験教室補	4	ジャージ	1100	弁当
2	焼き物	流紋焼	製品仕上げなど	4	ジャージ	1100	弁当
3	焼き物	樹の音工房		2	ジャージ	別途	弁当
4	焼き物	酔月焼窯元	生瀬戸物を削ってきれいに仕上げる作業	3	ジャージ	△	弁当
5	農場	会津水下農場	そば打ち・農業体験	6	ジャージ	×	そば
6	蜜蜂	(有)松本製蜂総本場	みつばち・巣箱の野外観察	2	ジャージ	×	弁当
7	蜜蜂	会津蜂蜜	案内・蜂蜜びんづめ体	3	ジャージ	×	弁当
8	味噌	林合名会社	味噌・しょうゆの製造作業(軽作業)	2	ジャージ	×	弁当
9	伝統工芸	(株)會津松本塩川工場	桐製品製造過程の軽作業の手伝い	5	ジャージ	×	弁当
10	伝統工芸	会津松本東西館	店内外の清掃など	3	ジャージ	×	弁当
11	伝統工芸	桐の博物館 山久		5	制服・エフロン	×	弁当
12	伝統工芸	鈴木屋利兵衛	店の掃除や商品(アクセサリー)制作	2	制服	×	弁当
13	伝統工芸	竹藪		2	ジャージ	×	弁当
14	伝統工芸	手づくり体験ひろば 番匠		3	ジャージ	×	弁当
15	伝統工芸	蒔絵工房 てるい	うす貝を型で抜く軽作	4	ジャージ	1500	弁当
16	伝統工芸	山田民芸工房	起き上がり小法師の絵付け	6	ジャージ	700円	弁当
17	伝統菓子	会津葵 本店		3	制服	×	弁当
18	伝統菓子	山中煎餅本舗	煎餅製造	2	ジャージ	300円	弁当
19	伝統菓子	(株)長門屋本店 屋号本家長門	材料の仕分け・箱の組み立て・洗い物など	6	ジャージ	カルメ焼き850	弁当
20	製菓	荒木製菓	製品の袋詰めなど	3	制服	×	弁当
21	製造	オノギ食品	製品の袋詰めなど	2	ジャージ		
22	せんべい	幸泉小法師	接客業務、清掃など	3	制服	×	あり
23	体験ひろば	がぶりガーデン本舗		2	ジャージ・エフロン・三角	×	弁当
24	土産物販売	会津若松観光物産協会 販売	土産品の販売補佐・袋詰めなど	2	制服	×	弁当
25	土産物販売	鶴ヶ城会館	土産品の販売補佐・袋詰めなど	5	制服	400円	あり
26	酒造	会津酒造歴史館	販売の手伝い・瓶詰め・カートン入れなどの軽作業	2	ジャージ	×	弁当
27	酒造	末廣酒造(株)	掃除・ビンのラベル仕上げ・酒についての勉強	4	ジャージ	×	弁当
28	酒造	(資)辰泉酒造	酒造庫の清掃及び瓶詰め作業	2	ジャージ	×	弁当
29	酒造	鶴乃江酒造株式会社	製品ラベル貼りなど	2	ジャージ	×	弁当
30	酒造	名倉山酒造株式会社	瓶詰め・酒造り	2	ジャージ	×	弁当
31	酒造	大和川酒造	瓶詰め・酒造り	3	ジャージ	×	弁当
32	酒造	山口合名会社	瓶詰め・酒造り	2	ジャージ	×	弁当
33	史跡	会津武家屋敷	場内の清掃・レストラン補助作業など	3	ジャージ	×	弁当
34	史跡	御薬園	境内の清掃など	5	ジャージ・帽子・軍手	×	弁当
35	史跡	大龍寺	除草・庭掃除	3	ジャージ	×	弁当
36	史跡	滝沢本陣	園内除草作業	2	ジャージ	×	弁当
37	史跡	鶴ヶ城・麟閣(財団法人会津若松市観光公社)	接客・清掃	3	ジャージ	×	弁当
38	史跡	麟閣(財団法人会津若松市観光公社)	接客・清掃	2	ジャージ	×	弁当
39	史跡	会津藩校 日新館	館内の清掃・弓道体験の手伝いなど	3	ジャージ	△入場料	弁当
40	サービス	JR会津若松駅	出改札の見学・体験・輸送コントロールタワーの見学・列車への体験乗車など	4	制服	1000円	あり
41	サービス	(株)ホテルニューハレス	模擬タクシー体験・パソコンによる配車体験・営業車の洗車など	2	ジャージ	×	弁当
42	サービス	民宿 多賀来	料理運び・片付け・清掃など	3	ジャージ	×	弁当
43	サービス	会津若松観光物産協会 ガイド	ふとんひき・洗面用具配り・掃除	3	制服	×	弁当

44	ラーメン店	頓珍館	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
45	ラーメン店	小豆屋	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
46	ラーメン店	はちバエ	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
47	ラーメン店	かぐや	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
48	ラーメン店	ほていや	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
49	ラーメン店	ふじ乃	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
50	ラーメン店	担々麺のおみせ	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
51	ラーメン店	一風亭	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
52	ラーメン店	喜多方ラーメン楽飯店	事務的な補助作業	2	ジャージ・サンダル・エフ	×	あり
53	ラーメン店	有限会社 いいで物産 喜 多方ラーメン味平	ウェイトレス	2	ジャージ・サンダル・エフ ロン	1000 円	あり
54	ラーメン店	たんぼぼ亭	接客・洗い物など	2	ジャージ・サンダル・エフ ロン(貸し)	500円	あり
55	ラーメン店	喜多方ラーメン蔵美		2	ジャージ・エプロン	1000	あり
56	ラーメン店	喜多方ラーメン朝昼夜	お客様対応・食器洗 い・清掃	2	ジャージ・エプロン・サン ダル	1000 円	あり
57	ラーメン店	喜多方ラーメン大喜	注文取り・後片付け	2	ジャージ・エプロン・サン	×	あり
58	ラーメン店	喜多方ラーメン丸見食堂	厨房内皿洗い・後片付 けなど	2	ジャージ・エプロン・サン ダル	1000 円	あり
59	伝統料理	会津鶴井筒	室内の掃除・お客様へ の接待	2	ジャージ	×	あり
60	伝統料理	株式会社 料理旅館 田事	掃除・配膳・料理運び	3	制服貸し出しあり	×	あり
61	伝統料理	割烹田季野	郷土料理作成・清掃な	3	ジャージ・エプロン・三角	×	あり
62	伝統料理	渋川問屋		2	ジャージ	×	弁当
63	伝統料理	鶴ヶ岡茶寮	配膳・開店前準備	2	制服	×	あり
64	そば屋	きよ彦 花	接客	3	ジャージ	×	あり
65	そば屋	栞葉木庵(くみのきあん)	接客・農業体験など	4	ジャージ	×	あり
66	そば屋	(有)倉津きり屋 桐屋 琴見亭	掃除・草取り・そば打 ち体験	2	ジャージ	×	あり
67	そば屋	そば処 和田	接客・そば打ち体験	3	ジャージ	1000	あり
68	そば屋	手打ちそば・うどん 徳一	調理助手・接客	3	制服	×	あり
69	飲食	安積屋本店 山葵	お客様を迎える準備・ 後片付け	2	ジャージ	×	あり
70	飲食	キャトル・シェフ	お客様を迎える準備・ 後片付け	2	ジャージ	×	あり
71	飲食	とんかつ番番	ホールで配膳・下膳な	2	ジャージ	×	あり
72	飲食	鱧のえびや	串打ち・焼き方・著作 成・お掃除・洗い物な	2	ジャージ	×	あり
73	飲食	(有)モトキ商事 和風 料理 亭車場/コロちゃんの コロッケ屋	調理補助	2	ジャージ	×	弁当
74	飲食	観光センター イカラシ	売店と食堂の注文とり	2	ジャージ・エプロン	×	あり
75	飲食	(株)マナックビジネス 会 津とらぞう	接客の補佐など	3	ジャージ	×	あり
76	飲食	やまでら茶屋	掃除・開店準備など	2	制服・エプロン	×	あり
77	飲食	中華飯店 大川	ホールの清掃・食器洗 いなど	2	ジャージ	×	あり
78	飲食	美由希食堂	ウェイトレス	2	ジャージ・エプロン・三角	×	あり
79	飲食	いさみ	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・三角	×	あり
80	飲食	寿・治左衛門	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・三角	×	あり
81	飲食	本丸茶屋	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ	×	あり
82	飲食	万世楼飯店	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・三角	×	あり
83	飲食	会津大学食堂	食品袋詰め・シール貼	2	ジャージ・エプロン・三角	×	あり
84	飲食	北方屋	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・三角	×	あり
85	飲食	薦宿亭	ウェイトレス・掃除	2	ジャージ・エプロン・三角	×	あり

< 研究発表 2 >

人との「ふれあい」をメインにおいた修学旅行

船橋市立法田中学校教諭 波田地 馨

はじめに

本校の学区は船橋市の北端に位置し、藤原地区、丸山地区で構成され、3つの小学校区を擁している。東には馬込沢駅があり、東武野田線が南北に通じ、学校の近くには木下街道が東西に走っており、かつての近郊農村地帯も宅地造成による新興住宅、団地、マンションの激増により大きな変貌を呈している。

また、本校は今年度で開校64周年を迎え、市内有数の伝統校に挙げられる。生徒数は9月16日現在585名(1年:191名, 2年:194名, 3年:200名)、学級数は18クラスで、船橋市では規模の大きい学校に属し、校訓に「自立」を掲げ、「豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成」を教育目標として、日々の教育活動を展開している。

生徒は純朴で素直な生徒が多く、明るく挨拶を交わす姿が学校の随所で見られる。部活動も盛んで14部活(運動系:11, 文化系:3)あり、加入率は約90%となっている。

P T A活動も盛んで、「法田中応援団」と称して年3回参加者を募り、学校環境の整備を行っている。また、地域の協力体制も確立されており、課外活動後援会や法典地区青少年問題連絡協議会などが組織されている。

本校の修学旅行の変遷

本校の修学旅行については、次頁からの表に示すとおり、平成17年度までは、班別行動での観光地の散策・見学及びアウトドア体験等が中心であった。

しかし、平成18年に教育基本法が改正される等の動きの中で、新たな目標に基づく学校教育が求められる気運の高まりを受け、教育課程の内容の見直しを図る必要性が生じてきた。

当然、教育課程の一部である旅行・集団宿泊的行事についても、「幅広い知識と教養」「豊かな情操と道徳心」「生命や自然の尊重」等の教育基本法の教育の目標を礎として、下に示す本校の学校教育目標具現のために同時進行で見直しを図った。

学校教育目標	
<u>豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成</u>	
自 立	自ら学ぶ生徒
	思いやりのある生徒
	心と体を鍛える生徒

修学旅行を中心とした旅行・集団宿泊的行事の見直しについては、校務分掌の旅行検討委員会を中心に進めていたが、この時の協議の中で、本校の生徒の大きな課題として「コミュニケーション能力の育成」ということが浮上した。つまり、人間関係づくりの未熟さ、周りの人々との人間関係の希薄さ等から生じるいじめなどの問題は、コミュニケーション能力の不足によるところが大きいと考えたわけである。

そこで、この課題を解決するために、修学旅行においては、単なるアウトドア体験などで

はなく、人とのふれあいを通して相手を思いやる心を育成したり、自分の気持ちを相手に伝える力を育てたりすることが期待できる体験活動を中心に据えることが重要であるとの結論に達した。

このような経過を経て生まれたのが、平成18年度にスタートし、今年度で6年目を迎えた民泊での自然学習・農村体験、ペンションでの体験を中心とした本校の修学旅行である。また、発展として、民泊先である鬼無里の小・中学校との交流も行っている。

このように、船橋と異なる環境の中で生活する人々の生活ぶりやものの考え方に触れることで、自分の価値観や生き方の幅を広げるとともに、初めて会う人々との心の交流を進める中で、相手の気持ちを理解しようとする態度の育成、人を思いやる心や健やかな心身の育成、そして、コミュニケーション能力の向上を図る機会として位置付け実践している。過去7年間の実施内容は次の通りである。

	1日目	2日目	3日目
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> ・班別行動 (上諏訪,下諏訪 松本市内, 白樺湖レジャーランド) ・穂高ビューホテル泊 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習(終日) (パラグライダー,ラフティング,スノーボード,スキー等) ・白馬ペンション分宿 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス別体験 (サイクリング,トレッキング,そば打ち)
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼無里中と合唱交流 ・鬼無里小の和太鼓 ・マーチング・合唱 ・各コミュニティで体験 (そば打ち,田舎汁,おやき) ・民泊体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼無里中と合同でブナの植樹(奥裾花自然園) ・奥裾花自然園をテーマごとにガイドと散策 ・アウトドア体験(半日) ・白馬ペンション分宿 (12カ所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペンションのオーナーと散歩 ・買い物
平成19年度	<ul style="list-style-type: none"> ・マーチング・合唱 ・農村お任せ体験 ・民泊体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村お任せ体験 ・アウトドア体験 ・白馬ペンション分宿 (12カ所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペンション体験 (バームクーヘン作り,アップルパイ作り,ケーキ作り等)
平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ブナ植樹 ・農村お任せ体験 ・民泊体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村お任せ体験 ・アウトドア体験 ・白馬ペンション分宿 (6カ所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・班別行動(松本市内・長野市内散策)
平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> ・マーチング・合唱 ・鬼無里小と和太鼓交流 ・農村お任せ体験 ・民泊体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村お任せ体験 ・ペンション体験 (ケーキ作り,ガレット作り,ジャム作り,アロマフレッシュナー等) ・白馬ペンション分宿 (12カ所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級別体験学習 (トレッキング,そば打ち,松本市内散策,長野市内散策,ガラス工芸等)
平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> ・マーチング・合唱 ・鬼無里小・中合同和太鼓 ・農村お任せ体験 ・民泊体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村お任せ体験 ・ペンション体験 (ケーキ作り,ガレット作り,ジャム作り,アロマフレッシュナー等) ・白馬ペンション分宿 (10カ所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級別体験学習 (トレッキング,そば打ち,松代散策,長野市内散策,ガラス工芸等)

平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱 ・農村お任せ体験 ・民泊体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村お任せ体験 ・サイクリング+体験（ガラス工芸,クリアポート） ・白馬ペンション分宿（12カ所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・班行動散策（松代，小布施，長野市内）
----------------	--	--	---

[6年間のおおまかな変遷]

・ふれあいを中核に据え、自然学習・農村体験を中心に実施内容を計画しているが、その年度によって生徒の実態及び鬼無里側の都合等を考慮し、具体的な活動内容を変更している。

・旅行・集団宿泊的行事の位置づけ

本校は、平成17年度まで2年次に2泊3日の林間学校を実施していたが、教科授業時数の確保や保護者の経済的負担の軽減を考え、平成18年度からは実施していない。

よって、修学旅行を最終目標に据えた旅行・集団宿泊的行事については、1・2年次に行う校外学習（遠足）が非常に重要なものになっている。

1・2年生とも方面や内容については、学年の発達段階及び生徒の実態を踏まえるとともに学年職員の構成等を考慮し、旅行検討委員会を中心に協議して決定しているが、修学旅行を見据えたものなので、体験的要素を取り入れることや班別行動をメインとした学習になることが必須となっている。

また、当日までの準備段階では、興味本位ではなくテーマに沿った行程をしっかりと組むことが出来るよう指導するとともに、事前学習の取り組みの成果を発表する機会を設けたりするなどして、学級及び班相互の信頼関係の深まり、プレゼンテーション能力の向上及びコミュニケーション能力の育成を進めている。

そして、最終段階の3年次には、テーマの持ち方や事前学習の進め方等についても、生徒自らが主体的に取り組むことができるよう、段階的に指導している。

なお、今年度の2年生の鎌倉校外学習においては、鎌倉の歴史をより深く学習させることと、自分たちの世話をしてくれる人との接し方を身につけさせることを目的として、シルバーガイドの活用を図った。

【近年の実施内容】

第1学年	第2学年
テーマ別体験学習（東京）+ 上野動物園 班別行動 班別東京下町散策（浅草方面） テーマ別体験学習（佐倉国立歴史民俗博物館）+ 学級レク オリエンテーリング（さがみ湖フォレストヒルズ）+ 学級レク	テーマ別体験学習（南房総） 鎌倉班別行動+ 座禅 鎌倉班別行動（テーマ別） 鎌倉班別行動（シルバーガイド同行）



< 1年団子作り（葛飾区柴又）>



< 2年 無人島探検（南房総市）>

・修学旅行実施運営計画

当日までの流れ（平成21年度実施例）

	時 期	時 間	活 動 内 容
2 年	1 2月上旬	学年会	第1回下見（担当者1名） ・鬼無里民泊関係機関への挨拶回り ・危険箇所チェック ・長野駅周辺チェック ・ペンション施設チェック・挨拶 ・二日目体験内容確認 ・三日目見学コース確認 ・三日目昼食場所並びにお土産売り場施設確認 等
			下見報告会 ・学年職員で大まかな行程の検討
	1 2月中旬		旅行検討委員会 ・概要の提案と承諾
	1月中旬	放課後	生徒の修学旅行実行委員会発足 ・方針，目的，内容，計画等の説明
	1月下旬	総合	修学旅行集会（実行委員会企画・運営） ・過去の実施内容と大まかな実施計画
	2月上旬	総合 学級	全体目標検討・決定 学級目標決定
	2月中旬	総合	班編制・班目標
	3月上旬	放課後	お土産作成 ・民泊先，及び各ペンション
	3月中旬	総合・学級	二日目体験内容検討・決定 三日目見学コース検討・決定
		4月中旬	

3 年	4月下旬	総合・学級	民泊先リスト決定 民泊先割り振り 民泊先挨拶状作成 ペンション部屋割り 民泊先・ペンション挨拶状送付
	5月上旬	総合・学級	実行委員会による修学旅行プレゼンテーション作成
	5月中旬	総合・学級	しおり原稿依頼 新幹線座席・バス座席割り振り 集会
	5月下旬	総合・学級	しおり印刷・完成 Time Table 作成
	6月上旬	総合	事前指導集会 当日

・民泊先体験内容

味覚体験

すいとん，そば打ち，こねつけ，おやき，うどん打ち，豆腐等

創作体験

お手玉，押し花，草木染め，キノコ駒うち，漬け物，木工，わら細工，絵はがき等

農林業体験

水田の手伝い，畑の手伝い，野菜の植え付け・収穫，木の伐採・枝打ち等

歴史・伝説体験

伝説の場所・史跡・寺社巡り，伝説・言い伝え・昔の生活の語り等

山里の体験

山菜・キノコ採り，化石探し，星の観察，釣り体験，野鳥・昆虫の探索，山歩き等

その他





薪割り，店の手伝い，乳搾り，缶風呂入浴体験等

・修学旅行実施計画（平成21年度実施例）

<目的>

自分たちと異なる環境の中で生活している方々との交流を通し、人の温かさに触れると共に、生活観や価値観の違いを知り、自分の生き方に対する視野を拡げる機会とする。
修学旅行の取り組みを通し、責任及び協力の態度を養い、集団の中の一員として自覚を持たせる。

校外での活動を通し、法田中生としての自覚の高揚と道徳心・社会性を身につけさせると共に、友人との相互理解を深める機会とする。

	時程	生徒の動き	教師の動き	備考
一 日 目		班ごとに馬込沢駅に集合出発チェックを受け移動	J R 船橋駅・東京駅所定ポイントに配置	・大バッグは前日に搬送
	8 : 45	J R 東京駅集合	点呼・健康観察	・駅構内にて
	11 : 05	J R 長野駅着		
	11 : 30	・開始式 バス乗車		
	12 : 30	鬼無里旅の駅着		
		・集合写真 ・昼食		
	13 : 25	鬼無里小体育館へ移動	大バッグ仕分け 対面式打ち合わせ	
	13 : 30	対面式 ・挨拶，学校紹介等 ・合唱 ・小学校との太鼓の交流 ・マーチング		・式進行は鬼無里民泊受け入れ世話係の方が担当
	14 : 50	民泊先の方との対面 ・民泊先へ移動	本部（鬼無里の湯）へ移動 地域巡回車3台に分乗し民泊先への挨拶と生徒の観察	
	15 : 30	民泊先お任せ体験		・46カ所分宿
				
	18 : 30	夕食	夕食・ミーティング ・校長，学年主任，担当者は地域巡回	
	22 : 00	就寝		
				

二 日 目	6:00	起床			
	7:00	朝食	朝食		
	8:00	民泊先お任せ体験			
	11:30	昼食	昼食		
	12:00	出発準備			
	12:40	鬼無里支所前集合 ・出発式			
	13:15	鬼無里支所出発	点呼・健康観察		
	14:15	白馬ペンション到着 ・ペンション体験(ケーキ作り, アップルパイ, エコクラフト, アロマフレッシュナー, クッキー, ジャム作り, ガレット, バームクーヘン等)	12カ所に分かれそれぞれのペンション体験をサポート		・クラス男女別 12カ所
	17:30	入浴			
	19:00	夕食			
19:45	フリータイム ・オーナー家族との交流	配送表配布			
21:00	荷物整理 ・大バッグは宅配で自宅へ配送				
22:00	就寝準備・健康観察	健康観察			
22:10	消灯	部屋巡回			
三 日 目	6:10	起床 ・大バッグ配送準備			
	7:10	朝の集い			
	7:20	朝食	点検		
	7:40	美化活動			
	8:00	ペンション発			
	8:10	クラス別体験開始 ・トレッキング, そば打ち, 松代散策, 長野市内散策, ガラス工芸等	学級に帯同		
		昼食 土産購入	帯同クラスと昼食 他校との接触・事故等の未然防止		・体験内容に応じ、時差は生じる
	14:50	JR長野駅集合	点呼・健康観察		

15:27	J R 長野駅発	各車両に分かれ指導
16:55	帰りの会	下車後の動き確認
17:12	J R 東京駅着	クラス先導
17:35	J R 東京駅発	人員確認
17:59	J R 船橋駅着	
18:30	馬込沢着 ・学級担任に報告後帰宅	人員確認

・修学旅行事後の取り組み

(1) 振り返りの反省

各個人 クラス内係会議 係代表者会議 実行委員会 事後集会
(学年全体)

(2) 作文・俳句・短歌作り

修学旅行の思い出を作文並びに短歌に書き表した。(国語・英語・学級)

(3) 礼状作成

民泊先やペンションのオーナーへ、お世話になったことに対する感謝の気持ちを込めて、お礼の手紙を作成した。

(4) 新聞作り

総合的な学習の時間を活用し、旅行記新聞を班ごとに作成した。コンクール形式で行い、制作意欲の喚起を図る。

実施年度により取り組む内容に多少の違いはあるが、修学旅行を振り返り個々ならびに各学級や学年全体で成果及び課題について整理をし、今後の学校生活に活かして行くよう指導助言に努めている。

・生徒作品等

(1) 俳句

『ぼくの細道』

○ 顔見上げ 夜の星を 思い出す
○ 長野との 別れを嘆く シギの声
○ 温かさ 優しさあふれ 鬼無里村
○ 絶え間なく 流れていくよ 水之音
○ 民泊で 都会の暮らし 考える
○ 鬼無里には 人の優しさ あふれてる
○ 行く先で 優しさ感じる またひとつ
○ 寺巡り スタンプ集め 思い出集め
○ 感ずるは 清き万緑 青き空
○ こみ上げる 別れと共に 出る涙
○ 寒かろう けれど温か 鬼無里村
○ アルプスの 山を背にして Vサイン

(2) 生徒新聞



(3) 民泊先挨拶状

野果名産の食べ物と食べることです。今からとても楽しみにしています。早くみなさんにお会いしたいです。まずは、ご挨拶まで。

平成二十三年 五月十三日

樋口様

船橋市土法田中学校 三年二組

敬具



拝啓

若葉の美しい今日この頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

このたび、六月二十三日の鬼無里の修学旅行において、一日目から二日目にかけて樋口さんのお宅でお世話になることになりました。船橋市立法田中学校です。お世話になるメンバーは全組で五人です。私は今回、リーダーを務めていただきます。と申します。(私は、上の写真の上の段の一番左です。)私は、合唱部に所属しており、クラスでは、学級委員を務めています。よろしくお願いたします。では、他四名のお世話になるメンバーを紹介したいと思います。上回の写真の上の段、右側から、です。部活動は、吹奏楽部に所属しており音楽と果物が好きです。その隣は、です。好きな食べ物はフルーツで、水泳が得意です。そして、下の段の右側から、です。好きな食べ物はそばで、水泳が得意です。最後に、その隣が、です。好きな食べ物はフルーツで、部活動は、バスケットボール部に所属しています。以上、この五名で、お世話になります。よろしくお願いたします。

鬼無里に行くにあたり、楽しみにしていることは、自然と触れ合うこと、長

☆ My Best Memory in Nagano 2010 ☆

CLASS 4 NO 15 NAME

Title

My best memory in Nagano

June 2nd we went to Nagano for 3 days as a school trip.
Those 3 days are my wonderful memories.

The stay at local people's house was very interested.

Me and my friends helped cooking dinner and farming
and so on. The most of experience were so hard that
I couldn't do it well.

And we also stayed at pension. Of course it was
very excited. We made an apple pie and sponge buns.
Apple pie was very delicious. It wasn't so difficult to

☆ My Best Memory in Nagano 2010 ☆

CLASS NO NAME

Title

make so I want to make it at home again.

But the buns were very difficult to make. We need to
move our arms so it was so hard.

And the last day, we visited the famous temple
called Zenkouji. I am interesting in old history so
I had a great experience. But I thought other
friends were too tired to walk around.

This trip was our last trip in Hoda junior high
school. I love our school and my wonderful friends.
I am looking forward to visit Nagano again with my
wonderful friends.

・成果と課題

信州の自然のすばらしさを体感できると共に、訪問した地域の歴史や文化に触れる良い機会となった。また、農業体験により生産者の苦労を知ったり、民泊先やペンションで地域の食材や郷土料理について理解を深めたりする中で、食育の学習を進めることができた。

民泊班の人数を極力少人数にすることで、一人一人の係分担が明確となり、責任を持って仕事に取り組むことが出来た。また、当日においては、民泊先の方々との交流がより濃いものとなった。

事前の手紙の交流を充実させることで、当日のコミュニケーションが取りやすくなった。同時に、その能力の伸長を図ることが出来た。

民泊先の方々との心の交流をはじめとし、農村体験等の非日常的な体験を経て、人の温かさや自然の中での営みについて、改めて感じ得る機会となった。また、自分の生き方に対する見識を広めるものとなった。

地元の小学校及び中学校との交流を進める中で、船橋市並びに千葉県と長野県との相違についての理解を深めることができた。

継続して鬼無里地区での民泊を実施する中で、民泊先の方が本校の卒業式に出席したり、卒業後に生徒が鬼無里を訪問したりするなど、より緊密な交流が行われている。

ペンション泊においても、男女別に分宿することで、生徒一人一人がオーナーとコミュニケーションを取りやすい環境を設定できた。また、生徒の掌握についても容易となる。

民泊受け入れ先の高齢化に伴い、受け入れ戸数の確保や、都合により急遽受け入れが不可能になった場合の対応が難しい。

旅行業者に、あらかじめ予備の家庭の確保を依頼しておく。

体験内容が民泊先の主導によるものとなっているので、生徒が主体的に体験内容を選択できるようになると、更に充実した取り組みになる。

希望する体験が実施可能である民泊先を割り振るよう配慮する。

本部と民泊先との距離が離れている所もあり、緊急時の対応に少々時間がかかる。

災害時における緊急時対応は、各コミュニティでマニュアルが定められておりそれに準じて行えるが、急病時の場合の対応は民泊先の車での搬送か救急車の要請依頼による対応に頼らざるを得ない。

学習指導要領の改訂に伴う、総合的な学習の時間の縮減により、指導内容の精選や活動計画の見直し等が必要である。

教育課程の見直しをはじめとし、修学旅行のねらいや実施内容の再検討を図る。

関東地区公立中学校修学旅行委員会「研究発表会のあゆみ」

昭和41年以来、次の研究発表会を実施した。(敬称略)

回	年度	発表者	県・学校名	◎講師	研究内容・講演内容
1	昭和41	増淵 増雄	栃木・泉が丘中		・修学旅行のカリキュラムについて
		吉沢庸之進	千葉・柏中		・修学旅行の安全対策
		関根武之進	埼玉・黒浜中		・修学旅行の保健衛生について
2	42	高島 栄治	茨城・赤塚中		・修学旅行における事故の発生と対策
		根岸 幸治	群馬・昭和東中		・中学生の関西修学旅行の実施について
3	43	◎宮本 常一	武蔵野美術大学		講演 「日本の宿の変遷と修学旅行」
		荒幡 義輔	埼玉・本太中		・修学旅行の問題点の教育的思考
		◎小沼 常治	東京桜町高校		講演 「修学旅行における見学指導の在り方」
4	44	君島 光夫	栃木・南犬飼中		・栃木県における修学旅行の実態
		小泉 義	茨城・水戸五中		・安全実施のための運営と問題点
		高田 福松	埼玉・幸手中		・今後の修学旅行の在り方
		君島 光夫	栃木・南犬飼中		・生徒の手による修学旅行
5	45	本間 康一	千葉・川間中		・特別活動としての学校管理上の問題点
		現地研修会(京都)			
6	46	◎宮本 常一	武蔵野美術大学		講演 「修学旅行における望ましい観光の在り方」
		人見 芳正	栃木・箒根中		・小、中、高の関連の中で
		塩入安三郎	栃木・鹿沼西中		・わかさ号で行こうとしたのに
		兵頭 ヤス	栃木・田沼東中		・新幹線を利用して
7	47	◎樋口 清之	國學院大学教授		講演 「歴史の真実」
		高橋 武司	千葉・柏中		・より効果的な修学旅行について
		高田 福松	埼玉・幸手中		・修学旅行引率費負担の現状と公費負担
8	48	◎佐藤 政次	茨城土浦日大高校		講演 「歴史と暦」
		高田 福松	埼玉・幸手中		・修学旅行の意義と目的
9	49	◎樋口 清之	國學院大学教授		講演 「旅と情報伝達 忍者の正体」
		菊地昌一郎	埼玉・加須北中		・オリエンテーリングを取り入れた修学旅行の実際
10	50	◎萩原 進	群馬郷土史家		講演 「群馬の風土と人」
		谷 正久	群馬・古巻中		・群馬県の修学旅行の現状
11	51	神坂 重光	茨城・古河二中		・本校における修学旅行の企画運営
		糸川 妙子	栃木・藤岡二中		・我が校の修学旅行の理論と実際 ー自主の気風を目指してー
12	52	坂田 次雄	千葉・松戸三中		・修学旅行における道徳教育の実践
13	53	吉田 貫	茨城・水戸二中		・充実した修学旅行を目指して
		潮池 ルミ	埼玉・蕨東中		・修学旅行における観察学習を効果的にするために ーしおり作成と活用ー
14	54	生方実太郎	群馬・多那中		・集合教育を取り入れた修学旅行 ー生徒の主体的な取り組みー
		阿部 茂	群馬・新治中		・有意義な修学旅行にするために ー新幹線における車窓教育ー
15	55	苅部 正夫	栃木・久下田中		・有意義な修学旅行にするために ー奈良公園におけるグループ別活動ー
16	56	天田 和之	埼玉・岡部中		・東北修学旅行を実施して
		平田 幸平	埼玉・日進中		・総力を挙げての修学旅行の運営 ー大宮市立中学校長会ー
17	57	鈴木 勝	千葉・松戸四中		・東北へ修学旅行を実施して ー生徒のアンケートをもとにー
		小川 辰雄	千葉・吾妻中		・生徒の自主プランによる修学旅行
18	58	岡野 久	茨城・永山中		・連合による修学旅行の効果的なあり方を求めて
		青木 英	茨城・見川中		・生徒を生かして育てる修学旅行を目指して
19	59	◎高橋 哲夫	文部省教科調査官		講演 「修学旅行の今日的課題」
		福原 昭	群馬・中之条四中		・本郡修学旅行の現状と課題
		福本長治平	群馬・富士見中		・よりよい修学旅行の在り方を求めて
20	60	◎高橋 哲夫	文部省教科調査官		講演 「自己教育力を育てる修学旅行」
		滝田 潔	栃木・横川中		・修学旅行を通じての自己啓発
21	60	松本 三郎	栃木・壬生中		・本県修学旅行の現状と課題
		片山 悦男	栃木・宝木中		・よりよい修学旅行の在り方を求めて
22	61	西川裕二郎	千葉・南行徳中		・みちのくの修学旅行
		村田小夜子	千葉・大洲中		・修学旅行を省みて

回	年度	発表者	県・学校名	◎講師	研究内容・講演内容
23	62	小日向勝美 川上 次雄	埼玉・朝霞四中 埼玉・大宮第二東中		・洛中班自由行動による見学活動 ・自由性を生かした修学旅行
24	63	◎高橋 哲夫 宮本千代子 川上 徹 須藤 和彦	文部省教科調査官 茨城・土浦第六中 茨城・日立豊浦中 茨城・下館中		講演「学習指導要領改訂の方向について」 ・生徒自身の生徒の手による修学旅行 ・お互いを高め合うグループ別見学学習 ・生徒と教師がともに作り、触れ、感じる修学旅行
25	平成元	<群馬県厚生年金会館> ◎高橋 哲夫 後藤 秀夫 真庭 幹郎	文部省教科調査官 群馬・小野上中 群馬・沼田西中		講演「新学習指導要領に於ける特別活動」 ・達成感の充実を目指した修学旅行 ・体験的な班別学習を取り入れた修学旅行
26	2	<ブラザインくろかみ> ◎渡辺 康隆 松岡美久子 大滝 伸一	栃木県教委副主幹 栃木・小山美田中 栃木・宇都宮国本中		講演「研究成果の確認と今後の課題」 ・主体性を育てる班別行動 ・あたらしい修学旅行の在り方を考える
27	3	<志津コミュニティセンター> ◎渡部 邦雄 斎藤 正行 山田 守人	文部省教科調査官 千葉・国分台西中 千葉・柏五中		主題「集団の中で自己を生かし協力しあう修学旅行をもとめて」 講演「集団の中に自己を生かす修学旅行」 ・リーダー養成を中心にした修学旅行 ・班別にテーマをもつ修学旅行をつくるには
28	4	<埼玉会館> 井桁 孝 大磯 宏 藤川喜久男	全修協修旅部長 埼玉・所沢富岡中 埼玉・狭山東中		主題「教育性を高める修学旅行をめざして」 提言「学校週五日制と修学旅行」 ・主体性を伸ばす班別行動 ・体験学習を通して生き方を学ぶ東北修学旅行
29	5	<茨城県立青少年会館> 井桁 孝 秋田 昌彦 安島 一之	全修協修旅部長 茨城・五所ヶ丘中 茨城・赤塚中		主題「自主的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」 提言「新学力を培う修学旅行」 ・生き方、在り方を学ぶ体験学習への援助指導の試み ・体験を通して自らの生き方を考える修学旅行への取り組み
30	6	<ブラザインくろかみ> ◎大槻 達也 田上 富男 古田 真隆	文部省環境教育専門官 栃木・市貝中 栃木・豊郷中		主題「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」 講演「修学旅行における生徒の自主性」 ・三年間を見通し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行 ・研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践
31	7	<群馬県生涯学習センター> ◎高橋 哲夫 今成 保治 田村 正紀	文教大学教授 群馬・渋川北中 群馬・池田中		主題「主体性を育てる修学旅行」 講演「これからの学校教育と修学旅行」 ・集団の行動力を高める修学旅行 ・主体性を育てる修学旅行の実践
32	8	<市原市勤労会館> 鈴木 俊幸 眞野 義幸	千葉・土中 千葉・木刈中		主題「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」 ・自主性を育む修学旅行の取り組み ・生徒の自主性を高める修学旅行のあり方
33	9	<浦和市民会館> ◎森嶋 昭伸 田村 俊明 金子 桂一	文部省初中局教科調査官 埼玉・鷺宮中 埼玉・鴻巣西中		主題「主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行」 講演「学校教育の転換と修学旅行への期待」 ・生徒の知恵と発想を大事にし、主体的に生きる力を育む修学旅行 ・自主的活動をめざした修学旅行
34	10	<水戸市民会館> 岩原美智枝 坂入 秀範	茨城・日立坂本中 茨城・下館北中		主題「主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行」 ・自ら学ぶ態度を育てる修学旅行をめざして ・主体的に活動し、実践力のある生徒を育てる修学旅行
35	11	<ブラザインくろかみ> 高塩 博美 片川 慶子 三芝 直美	栃木・宮の原中 栃木・毛野中 〃		主題「生きる力」をそだてる修学旅行 ・体験学習を取り入れた修学旅行 ・自らの生き方を求める体験学習としての修学旅行
36	12	<群馬県生涯学習センター> ◎森嶋 昭伸 高橋 隆雄 埴田 栄一 田中 充弘	文部省初中局教科調査官 群馬・新治中 群馬・長野原西中 〃		主題「生きる力」を育てる修学旅行 講演「これからの学校教育と修学旅行」 ・自主的に取り組む班別行動をめざした修学旅行 ・自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する修学旅行 ー総合的な学習の時間を活用してー

回	年度	発表者 県・学校名 ◎講師	研究内容・講演内容	
37	13	<アミュゼ柏>	主題 「生きる力を育てる修学旅行」 ・体験学習を取り入れた班別自主学習	
		田淵 実		千葉・西志津中
		佐藤 卓		〃
		池田 保		千葉・湖北台中
38	14	渡辺 勝徳	埼玉・神泉中	
		関口 陽子	〃	
		梅津 稔	埼玉・南高麗中	
		<さいたま市民会館おおみや>	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 ・自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行	
39	15	<ブラザイン・くろかみ>	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 ・自己決定の場面を生かした修学旅行	
		生田目 薫		栃木・国本中
		岩崎 昌美		〃
		田中 弘子		栃木・栃木西中
40	16	<ホテルレイクビュー水戸>	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」 ・修学旅行における国際交流学習の一端 -「Why don't you come to Suifu?」郷土紹介のガイドブックを携えて- ・集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方 -中学校3か年の旅行・集団宿泊的行事の実践的取り組みを通して-	
		棚井 義広		茨城・水府中
		古内 勝己		〃
		一色三千男		茨城・水戸第四中
41	17	<水上館>	主題 「修学旅行における『学び』の創造」 ・見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都・奈良 -体験的な活動を通して成長する生徒を目指して- ・生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行 -総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して-	
		小淵 誠		群馬・薄根中
		須田 秀昭		〃
		栗原 和彦		群馬・金島中
42	18	<流山市生涯学習センター>	主題 「修学旅行における『学び』の創造」 ・ふれあい、体験、大人から学ぶ山形の旅 -3年間を見通したキャリア教育を核として- ・日本文化探究をととした生徒の向上	
		根本 晃男		千葉・みつわ台中
		平野 正春		〃
		村山 義則		千葉・南部中
43	19	<さいたま市民会館おおみや>	主題 「子どもの未来を拓く修学旅行の役割の研究」 ・生きる力をはぐくむ修学旅行 -体験学習を通して自分の将来・地域を見つめる旅- ・過去・現在・未来、そして自分を見つめる修学旅行 -総合的な学習の時間とリンクした実践的な取り組みを通して-	
		大倉 芳樹		埼玉・川口東中
		桜井 信雄		埼玉・埼玉中
		<ホテルレイクビュー水戸>		主題 「感動ある修学旅行の実現」 ・学級団結をねらいとした旅行的行事の実施 ・結束力を高め、個が生きる修学旅行のあり方 -絆を深める体験活動を取り入れた自分発見の旅-
飯野 兼一	茨城・水戸五中			
鈴木由香子	茨城・内原中			
<小山市文化センター>	主題 「感性をはぐくむ修学旅行の探究」 ・世界遺産の地で感性を磨く修学旅行のあり方 -クラス別茶会(京都・奈良)と献茶式(春日大社)をとおして- ・心に響く修学旅行のあり方 -平和への想いを歌声にのせてIN広島-			
戸倉 文夫		栃木・上三川中		
仁平 和希		〃		
飯塚 雅美		栃木・佐野西中		
46	22	<前橋テルサ>	主題 「感性をはぐくむ修学旅行の探究」 講演 豊かな感性をはぐくむ修学旅行 ・伝統と文化を探るテーマ学習	
		◎児島 邦宏		東京学芸大学名誉教授
		瀬戸 満		前橋・第五中

表紙写真：ブナ合同植樹（船橋市立 法田中学校）

第47回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会紀要

平成23年11月22日

発行 関東地区公立中学校修学旅行委員会
公益財団法人全国修学旅行研究協会
[事務局] 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8
TEL 03 5275 6653 FAX 03 5275 6653
E mail shuryo@h2.dion.ne.jp
URL <http://shugakuryoko.com/>